

# リコーがユニファイドコミュニケーション事業に参入 テレビ会議の未開拓市場を攻める

映像コミュニケーションをメインにUC事業に参入するリコー。独自コンセプトの新製品とクラウドサービス、そして強大な販売力を武器に、既存のテレビ会議/Web会議ベンダーに真っ向勝負を挑む。 文 坪田弘樹(本誌)



リコー  
総合経営企画室  
新規事業開発センター  
UCS事業室 室長  
中村英史氏

ここしばらく国内ベンダーに目立った動きのなかったユニファイドコミュニケーション(UC)市場だが、新年度はそこに有力なプレイヤーが加わる。Unified Communications System(UCS)事業を新規に立ち上げたリコーだ。

同社は2月7日に、映像コミュニケーションを中心に事業領域を拡大すると発表した。その第1弾として今夏、映像コミュニケーション機能を提供するクラウドサービスを開始。合わせて、独自の遠隔テレビ会議システムも発売する予定だ。

OA機器最大手が突然打ち出したUC市場への進出。現在“仕込み中”の新製品・新サービスはどのようなものなのだろうか。

## 新たな利用シーンを創出

「映像コミュニケーションの新しい利用シーンを創り出す」

総合経営企画室・新規事業開発センター・UCS事業室の中村英史室長は、新事業の狙いをそう語る。

図表1は、UCS事業の全体像を表したものだ。リコーのサービスプラットフォームを基盤として、自社開発のテレビ会議システムや、PCやスマートフォン、タブレット端末など多様な情報機器を活用できる映像コミュニケーション機能をクラウドサービスとして提供する。

最初の攻め口は、企業内で使ういわゆる「テレビ会議」だ。順調に成長するこの市場でまず事業を立ち上

げ、その後、利用シーンをテレワークやモバイルワークといった社外へ拡大。さらに、会議専用機器だけでなくPCやスマートフォン、タブレット端末などからも利用できるサービスに育てていく。

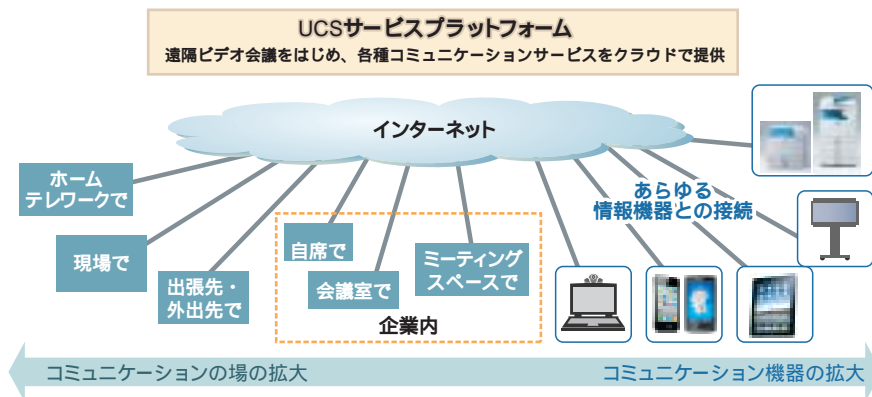
こう説明すると、少なくとも第一段階においては「リコーがテレビ会議システムを発売する」というに過ぎない。だが、新製品とサービスが実際に市場に投入される際には、大きなインパクトをもたらさそうだ。

## 誰でも使える簡便さを追求

新製品は、「ポータブルタイプ」と「会議室設置タイプ」の2機種。後者は一般的なテレビ会議システムと同様のものだが、注目すべきは「ポータブルタイプ」だ。その名の通り、持ち運べるテレビ会議端末である。

正式発表前であるため、製品概観や詳細な仕様は紹介できないが、中村氏の説明によれば、次のようなものになる。ノートPC程度の大きさの筐体にカメラ・マイク・スピーカーと、有線・無線LAN通信、映像出力機能などを備える。これを、プロジェ

図表1 リコー ユニファイドコミュニケーションシステム(UCS)事業の全体像



出典:リコー